

# 病害虫発生特殊報 第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

## ブルーベリータマバエ(仮称)の発生について

- 1 病害虫名** 和名：ブルーベリータマバエ（仮称）（ハエ目：タマバエ科）  
学名：*Dasineura oxycoccana* (Johnson)、英名：blueberry gall midge
- 2 発生作物** ブルーベリー
- 3 発生経過**

平成28年6月22日に県東部地域のブルーベリー露地栽培ほ場において、新梢先端部にハエ目タマバエ科の幼虫の寄生と被害が確認された。採取した幼虫を富山県農林水産総合技術センター農業研究所で羽化させ、農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼した結果、*Dasineura oxycoccana* (Johnson)、(英名：blueberry gall midge)と判明され、県内で初めて発生が確認された。
- 4 発生状況**

本種は、北米原産で、平成8年にヨーロッパで初めて確認され、平成20年には韓国で発生が確認されている。

国内では平成27年6月に、群馬県で初めてブルーベリーでの発生と被害が確認され、平成28年4月には静岡県で確認され、それぞれ特殊報が発表されている。
- 5 被害**

幼虫がブルーベリー新梢先端部の未展開葉を食害し、枯死させる(図1)。新梢が出るたびに被害にあうと、枝が伸びずに分岐してしまう。なお、果実への加害は確認されていない。

施設栽培、露地栽培ともに寄生は確認されているが、被害が大きいのは、施設栽培における春季の新梢伸長期とされている。
- 6 特徴**
  - (1) 形態**

幼虫は体長約2mmのウジ状で、体色は白色から黄色で成熟するにつれてオレンジ色を帯びる(図2)。蛹も体長約2mmでオレンジ色である(図3)。成虫は蚊を小さくした様な形態で体長約2~3mm、触角は数珠状で翅は翅脈が少ない膜状である(図4)。
  - (2) 生態**

国内における生態は不明だが、海外の文献によれば、花芽や枝先の生長点を包んでいる未展開葉の隙間に5～10個（最大20個）を産卵し、約2～3日でふ化した幼虫は先端部の植物組織を食害する。本種はブルーベリーへの加害の報告はあるが、その他植物では不明である。なお、アメリカフロリダ州北部では、1～6月にかけて5～6世代、ミシシッピ州では2～11月にかけて約11世代発生する。成熟した幼虫は土中で蛹になり休眠して越冬することが報告されている。

## 7 防除対策

- (1) 平成28年7月現在、ブルーベリーにおいては本種に対する登録農薬はない。
- (2) 新梢の寄生部位を切除し、直ちに袋に入れ密封し、死滅させる。

### 【参考資料】



図1 新梢先端部の食害



図2 幼虫（体長約2mm）



図3 蛹（体長約2mm）



図4 成虫（体長3mm）

問合せ先 農業研究所 病理昆虫課  
TEL076-429-5249 FAX076-429-2701